

コード	205031403
記入日:	H22.6.11

事務事業途中評価表

課コード	121
課名	消防本部
課長名	福本和良
担当者	堤政二

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	待機宿舎維持管理事業
----------	------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 21 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け			
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	9		
施策コード	205	施策名称	安全を実現できる体制づくり	項コード	1		
基本事業コード	20503	基本事業名称	消防団組織と消防施設の充実	目コード	1		
事務事業コード	2050314	事務事業名称	施設維持管理事業費	細目コード	931		
関連計画				法令・条例規則等			

計画(PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標					
(対象1)	待機宿舎	(対象指標1)	5棟(18戸)				
(対象2)		(対象指標2)					
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
*****	・現在入居している、有川官舎の3戸分の屋上防水工事と水道管6戸を修理した。	*****	*****	*****	修繕6箇所÷計画6箇所	*****	
		①	修繕	6箇所	100%		平成21年度
		(達成率分析)	・現在入居している、有川官舎の3戸分の屋上防水工事と水道管6戸を修理した。				
		②	*****	*****	*****	委託6箇所÷計画6箇所	*****
		(達成率分析)					平成21年度
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
消防吏員が、災害に対して即時対応できるように建設された待機宿舎について、保守点検等を実施して消防官舎の維持・管理に努める。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		*****	*****	*****	入居可能戸数6戸÷計画6戸	*****	
		①	入居可能戸数	6戸	100%		平成21年度
		(達成率分析)	有川官舎のみ入居6戸のうち3戸が入居しており、6戸分の修理を実施した。				
	②	*****	*****	*****	*****	*****	
	(達成率分析)						

実施(DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 箇所	13	13	7	6	6					
	② 箇所	12	12	6	6	6					
成果指標	① 戸	6	6	6	6	6					
	②										
総事業費C(A+B)	千円	12,620	12,998	5,827	6,793	7,171					
直接事業費A	千円	9,120	9,498	3,027	6,093	6,471					
人件費B	千円	3,500	3,500	2,800	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.5	0.5	0.4	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	12,620	12,998	5,827	6,793	7,171					

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 消防業務において、必要不可欠の施設であるため必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 入居者希望がいる間は必要である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由 入居者官舎のみの補修等であため適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由 勤務箇所と自宅が遠い職員が入居しており、火災発生時の召集が早い。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由 建物の補修・改修等により老朽化を防ぐことが出来る。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由 老朽化に拍車がかかり、補修・改修の費用が多額となる。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由 消防吏員待機宿舎である限り不可能と考える。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由 現在も小規模な修繕は職員で対応しているため、削減することは出来ない。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由 必要最小限の人件費であり、削減することはできない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由 消防吏員待機宿舎であるため、受益者負担は適切であると思われる。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	建物全体の補修・改修等、老朽化のものに対して必要であり、現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	待機宿舎入居者は、火災発生のおり招集が早く、迅速な出勤につながっている。
		効率性	現在も小規模な修繕は職員で対応しているが、建物の補修・改修等、維持管理は必要である。ただし、老朽化により入居者の可能性の無い宿舎については、廃止を検討する。
	課題に向けた改善策	入居官舎のみの事業であるため現状どおりとする。	
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	入居棟の維持・補修は住環境の改善のため、計画的に実施すること。また老朽化により入居が不可の物については廃止計画を作成し順次対応していくこと。
効率性		維持管理については計画的に実施していくこと。	

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続				類似事業と整理統合
		●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。